

◆長崎大学に留学したきっかけは何ですか？

私は遺伝子について興味があったのでパラグアイの大学では生物学を専攻し、そこで熱帯病(特に中南米で流行しているジャージャー病)について研究をしていました。その時に、日本人のサポーターや先生方と一緒に研究を行い、長崎大学でも熱帯病の研究が行われていることを知ったのがきっかけです。

◆パラグアイで熱帯病の研究に

専念したのはなぜですか？

中南米ではジャージャー病という熱帯病に感染している人が約1万8000人いると言われています。これはジャージャー病の寄生原虫を保有しているカメムシが人の血を吸い、その時に出す寄生原虫を含んだ糞が傷口に触れて起こる熱帯病で、地元パラグアイでは約9%の人が感染しています。症状は風邪に似ているのですが、感染してから20〜30年後、感染者の20〜30%の人だけに心臓や大腸などに深刻な症状が見られることが分かっています。

なぜ重い症状が出る人と出ない人がいるのか。その理由が私たちの遺伝子と関わりがあるようなので、それを追求するためにこの研究に専念するようになりました。今は、中南米(特にポリビア)から血液サンプルを取り寄せて、遺伝子を抽出しながら研究を行っています。

◆遺伝子一つ一つを見るときは、

根強い研究がカギになりそうです。

そうですね。私は「石の上にも3年 (Perseverance wins in the end)」というこ

# 留学生のキャンパスライフ



パラグアイ Paraguay



パラグアイの家族との写真

「今は日本での生活にも慣れ、おじぎも自然とできるようになりました。パラグアイはキスとハグで挨拶をしますが、時々地元でもおじぎで挨拶をしています。」

日本とほぼ同じ面積で、南米の中央に位置する国、パラグアイ。国を北から南へ流れるパラグアイ川を境に、西部南側は野生動物の宝庫、そして東部地域は森林丘陵地帯が広がっており、牧畜業がさかんに行われています。

**フロレンシア・デル・プエルトさん**  
FLORENCIA DEL PUERTO

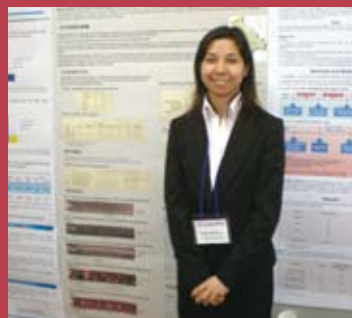
医歯薬学総合研究科 生命薬科学専攻(博士前期課程)



熱帯病の研究を通して、  
もっと自分を成長させていきたい



普段は遺伝子を血液中から取り出し実験を行ったり、解析したデータをまとめたりして論文を作成します。



2007年3月、大阪で行われた寄生虫学会で発表した時の写真。



ジャージャー病の寄生原虫



ジャージャー病の寄生原虫を保有するカメムシ

とわがが好きなのですが、日本に来てからは特にこのことを意識して研究を進めています。この言葉によって「長崎大学でも一生懸命研究に打ち込んでいこう」と、自分を奮い立たせています。

◆中南米と日本では

環境が全く異なると思いますが、長崎の第一印象はどうでしたか？

日本に来る前に言葉や文化を勉強していたのですが、実際日本に来て一番驚いたのは、服装のことでした。日本人は日常生活のなかで「きもの」を着ている人がいますよね。しかし、パラグアイでは日常生活のなかで民族衣装を着る機会はほとんどありません。着るのは大きな祭り事の時、それも人前に出て踊りを披露する人ぐらいです。だから、そういう日本人を見て、「自分の文化を大切にしている国だな」と感動しました。

そういえば、日本の大工さんが着ている裾の広がった作業服を見た時、今まで見たことがなかったのが、珍しくてすごく驚いてしまったことを覚えています(笑)。

◆最後に今後の夢を教えてください。

今の目標は、長崎大学でもっと遺伝子と熱帯病との関わりを研究し、卒業することです。いつかは地元パラグアイに戻り、大学の先生になりたいと思っています。私の母が工学の先生だったこともあり、その影響を少し受けているのかもしれませんが(笑)。

私は教えることも好きなので、研究と教える事が両方できる大学の先生を目指して、これからもがんばっていきたくと思っています。